

本検討会議の設置までのスポーツ博物館に関する動向

○ 1959(昭和34)年、スポーツ博物館が国立競技場内に設置(図書館も併設)

○ 国立競技場の老朽化に伴い、JSCが2012(平成24)年1月に設置した「新国立競技場将来構想有識者会議」において、新しい国立競技場の将来構想を検討。新しい国立競技場に求められる要件のうち、スポーツ振興機能として、スポーツ博物館・図書館等を整備することを了承。

○ JSCが2012(平成24)年1月に設置した秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の在り方検討委員会において、「新秩父宮記念スポーツ博物館・図書館(仮称)基本構想」を策定(2012(平成24)年11月)。
(新国立競技場内に、スポーツ博物館・図書館を整備)

○ 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定に伴い、新国立競技場を整備することとなり、2014(平成26)年5月に一時休館し、足立区綾瀬に倉庫を借りて移転。

○ 2015(平成27)年7月、新国立競技場整備計画が白紙撤回となる。
新しい整備計画では、新国立競技場の施設については「原則として競技機能に限定する」とともに、「スポーツ博物館等のスポーツ振興を目的とした施設は設置しない。」とされたため、移転先について未定となる。
(秩父宮雍仁親王殿下の御遺品については、新国立競技場に保存)

○ 2018(平成30)年度から始まったJSCの第4期中期目標において、「スポーツ博物館や図書館の今後の在り方について、その機能や役割などを、平成30年度中に結論を出して具体的な取組を進める」ことを文部科学大臣から指示。

スポーツ博物館将来構想検討会議の設置(2018(平成30)年7月)